28P-am06

6 年制薬学部教育における薬剤師国家試験対策学習と卒業研究が相互に与える影響

〇多田 智美[1,2], 益見 厚子[1], 津田 岳夫[1], 永倉 透記[1,2]（[1]青森大薬, [2]青森大薬教育セ）

【目的】薬剤師に求められる基本的資質の一つとして、薬学・医療の進歩と改善に資するための「研究能力」が挙げられている。従って 6 年制薬学部教育、特に後期教育において薬剤師国家試験対策勉強（国試対策勉強）と卒業研究を両立させることが肝要である。本研究は、国試対策勉強と卒業研究が相互に与える影響の検証を目的とし、両者の成果を数値化して相関性を検討した。
【方法】青森大学薬学部において平成 28 年度に 6 年生に進級した 58 名を調査対象とした。国試対策勉強成果の数値化：学生は国家試験形式で出題される卒業試験を受験し、その成績(満点:345 点)を成果とした。卒業研究成果の数値化：1 名の学生あたり複数（主査・副査）の教員が評価を担当した。評価対象成果物は、ポスター発表、卒業論文、および研究室配属期間中(4-6 年)の総合評価とした。10 項目(各項目に対して 1～5 点を付与)からなるシートを、評価用ツールとして用いた。
【結果と考察】国試対策勉強成果と卒業研究成果の間に一定の正の相関性が認められた。しかし、国試対策勉強成果が高いが、卒業研究成果は極めて低い学生、あるいはその逆の型の学生も存在した。卒業研究成果は主査評価と副査評価の間で相違がみられた。本研究は、国試対策勉強と卒業研究は相互に正に影響することを示唆した。国試対策勉強成果数値は、多くの試験問題を用いて得るため精度が高く、客観的である。一方、卒業研究成果数値は最大 3 名の教員による評価結果であり、評価者の主観の影響が大きい。今後卒業研究成果評価においてより客観的な評価を取り入れて、両者の相関性をさらに検討したい。